

生活者通信

生活と政治をつなぐ情報紙

No.416
2026.5.1

東京・生活者ネットワーク

発行 東京・生活者ネットワーク
〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASK ビル4・5階
TEL.03-3200-9189 FAX.03-3200-9274
Eメール tokyo@seikatsusha.net
URL https://www.seikatsusha.me
発行責任者 山内玲子
定価 年間1000円・1部100円 郵便振替口座 00130-3-18417
毎月1回1日発行 1994年5月23日第三種郵便物認可



生活者ネットワーク3つのルール

1 議員は交代制(ローテーション)

生活者ネットワークの議員は、交代制。議員を職業化、特権化せず、世代交代を進めることで参加の層を広げます。任期を終えた議員は、市民政治を広げるための活動や地域活動などに、その経験を活かします。

2 議員報酬は市民の政治活動資金に

生活者ネットワークの活動はカンパで支えられています。議員報酬は、市民の政治活動資金に活かします。お金の流れは公開し、政治資金の透明化をはかっています。

3 選挙はカンパとボランティアで

選挙は、政治に参加する入り口です。みんなでお金(カンパ)と知恵や労力(ボランティア)を出し合い、選挙を行います。

都政情報

■東京都都市計画審議会開催。

地域ネット

大田ネット

おしゃべりカフェ×ひとこと提案
5月12日(火) 14:00~16:00 大田・生活者ネット事務所(池上駅) 100円 03-6424-7561

小金井ネット

憲法カフェ 子どもたちを戦争に巻き込ませないために
5月17日(日) 14:00~16:00 萌え木ホール(武蔵小金井駅) 講師:長尾詩子さん(弁護士)
042-387-1068

杉並ネット

吉田はるみさんと考える 続・憲法と私たちの暮らし
5月23日(土) 13:00~15:00 阿佐谷地域区民センター第2集会室(阿佐ヶ谷駅) 講師:吉田はるみさん(前衆議院議員) 500円 主催:運動グループ地域協議会 03-5377-1070

品川・大田・目黒ネット

みんなで学ぼう! 憲法連続学習会 第3回
5月23日(土) 14:00~16:30 緑が丘文化会館本館201(自由が丘駅) 講師:南部義典さん(国民投票総研代表) 500円/子ども・学生無料 主催:憲法を学ぶ実行委員会 kenpomnabu345@gmail.com 03-5751-7105

練馬ネット

「戦争はしない・原発はいらない」9条スタンディング(毎月9日)
6月9日(火) 12:00~13:00 練馬駅南口 主催:生活者ネット9条の会 03-3993-4899

葛飾ネット

なんでも相談会(毎月10日)
6月10日(水) 10:00~12:00 葛飾・生活者ネット事務所(京成高砂駅) 暮らしのお困りごと、福祉や介護、医療のちょっと聞きたいこと。議会のことも 03-5876-4757

生活者ネットワークは東京都内32の自治体にあり、都議1人、市・区議39人の女性議員とともにそれぞれの地域課題に取り組むと同時に、市や区をこえた「東京問題」には全体で取り組んでいます。
東京を生活のまち、安心・共生・自治のまちにするために発言を続けます。



「食と農の未来を考えよう」ゲノム編集などの最新事情で講演する、印論智哉さん。2026年3月14日、立川市女性総合センター・アイムホール

講演会「食と農の未来を考えよう」ゲノム編集などの最新事情」の資料

日本政府の食料政策は、フードテック(植物工場)、バイオテクノロジーが基軸になり、農業は大規模化、スマート農業導入、輸出強化が3本柱になっており、農家の激減、米生産の不安、種子自給率や食料自給率の低下はまったく重点課題になっていません。食料自給率38%(カロリーベース)の中、今回のような国際競争によって、いつ食料危機に見舞われるかわからない危険な状態にあるのです。コストを下げさせるグローバルな食システムには、実は、見えないコスト(農薬や化学肥料の増加、環境破壊、土壌喪失)がかかっています。印論さんは、未来の食料危機と

食糧危機の恐れ一問われる食と農業のあり方

「食と農の未来を考えよう」ゲノム編集などの最新事情で講演する、印論智哉さん。2026年3月14日、立川市女性総合センター・アイムホール



立川生活者ネットワーク市議会議員
あべみさ

何を食べて食べるかは、私たち一人ひとりの大切な権利です。その権利を保障するためには、ゲノム編集食品の表示義務づけが必要です。運動グループ立川地域協議会が、国に対して、ゲノム編集食品の表示を求める署名活動の準備をしています。食の安全と自己決定を守るため、生活者ネットワークは市民とともにゲノム編集食品の表示義務づけを求めていきます。

日本政府の食料政策は、フードテック(植物工場)、バイオテクノロジーが基軸になり、農業は大規模化、スマート農業導入、輸出強化が3本柱になっており、農家の激減、米生産の不安、種子自給率や食料自給率の低下はまったく重点課題になっていません。食料自給率38%(カロリーベース)の中、今回のような国際競争によって、いつ食料危機に見舞われるかわからない危険な状態にあるのです。コストを下げさせるグローバルな食システムには、実は、見えないコスト(農薬や化学肥料の増加、環境破壊、土壌喪失)がかかっています。印論さんは、未来の食料危機と

ゲノム編集食品表示義務づけを消費者の知る権利を求めて

3月14日、立川市女性総合センター・アイムホールを会場に、生活クラブ生協まち立川主催の講演会「食と農の未来を考えよう」が開かれました。講師は印論智哉さん(OKシードプロジェクト事務局長)。ゲノム編集食品を始めとする食の最新事情はもとより、日本の農業や私たちの暮らしにどのような影響があるのかなど、食の課題について学ぶ機会となりました。

知らずに口にしているかもしれないゲノム編集食品

日本では、すでにゲノム編集食品が流通しており、消費者がそれと知らずに口にしている可能性があることが示されました。問題は、本当に安全だと言いつけるのかという点です。現時点では、長期にわたって食べ続けた場合の健康への影響について、十分な知見が蓄積されていないと印論さんは、この点を強く問いかけました。

国はゲノム編集を「外来遺伝子を最終的に残らないもの」として、遺伝子組み換えとは異なる扱いをしています。しかし、どちらも人為的に遺伝子に手を加える技術です。遺伝子は、一つが一つの働きを担っているとは限りません。一

つの遺伝子が複数の機能に関わっていることもあります。そのため、特定の性質を変える目的で遺伝子进行操作しても、狙った変化だけが起こればならず、別の機能や生態系全体のバランスに予想外の影響を及ぼす可能性があるというのです。

ゲノム編集食品はいらない地域から発信しよう

2022年、私が立川市議会議員に初当選した頃、「ゲノム編集トマトの苗を小学校や福祉作業所などに配布する動きがある」と聞き、初めての一般質問で取り上げました。立川市の小学校では受け取らないよう、また学校給食にゲノム編集食材を使わないよう求めました。市の答弁では、市内の小学校や福祉作業所で配布されたとは聞いていないとのことでしたが、学校給食の食材については、表示がないため見分けることが難しいとのことでした。私はそのとき、だからこそ表示が必要なのだと強く感じました。

山口県上関町発! 「ひと」不在のまま進む中間貯蔵施設、原発誘致にNO!

2023年8月、山口県熊毛郡上関(かみのせき)町に地域振興策として、中国電力から使用済核燃料の中間貯蔵施設の立地可能性調査が提案された。上関町長は住民の意思を確認せず、わずか16日間で受け入れを決めた。上関町はこれまで40年以上、原子力発電所建設計画により住民が賛成・反対で分断され、親戚・友人の仲をも引き裂かれた。原発問題をめぐって苦しい思いをし続けてきた町の姿を中国電力も知っているはずだ。それにも関わらず、また新たな原子力施設を提案してきた中国電力、それを住民の意見をしっかりと聞くこともせずすぐに受け入れた町長の姿勢はまったく理解できない。

私が反対した最初の理由はそこだ。他にも理由はいくつもあがあるが主には次の2点だ。
・国の掲げる核燃料サイクルの破綻。六ヶ所再処理工場は完成予定から30年近く経過しているが、未だに完成していない。永久貯蔵を懸念。
・上関町はこの40年以上、原子力による交付金を受け取ってきたが、人口減少や過疎高齢化に歯止めをかけることはできていない。

また交付金を活用して建設した施設の維持管理費に追われ始めている。まだ原発も中間貯蔵施設も建設されていないのにこの状況である。財政難を理由に受け入れを進めようとするが、使用用途の限られる原子力財源を上手く活用しまちを活性化していくことは難しく、これ以上の依存は避けなければ今以上の



毎年6月に開催される中国電力の株主総会に、祝島(上関町)から誘致反対の意思表示をするために、本社前で旗を持って座り込みをする島民ら



清水康博 上関町議会議員

Information

#ママ戦争止めてくるわ～治安国家の再来に抗して

5月23日(土) 19:00～21:00 武蔵野スイングレインボーサロン(武蔵境駅) 講師:青木理さん(ジャーナリスト) 500円(障がい者・高校生以下無料) 要予約 むさしの憲法市民フォーラム FAX0422-20-9031 k-takagi@takagi-law.com

3.11で変わった私の暮らし

5月24日(日) 14:10～15:40 武蔵野商工会館ゼロワンホール(吉祥寺駅) 講演:稲垣えみ子さん(元朝日新聞記者) 無料 要申込 NPOむさしの市民エネルギー 090-6015-8706 (西園寺) musolar2013@gmail.com

東京電力は福島原発事故の責任をとれ! 東電本店合同抗議

6月3日(水) 18:45～19:45 東京電力本店前(新橋駅、内幸町駅) 呼びかけ:経産省前テントひろば 070-6473-1947 / たんぼぼ舎 03-3238-9035

辺野古新基地建設許さない 新宿南口スタンディング

6月6日(土) 11:00～12:00 新宿駅南口 沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック 090-3910-4140

都議会REPORT

東京から核廃絶と平和に向けた発信を

東京・生活者ネットワーク都議会議員
岩永やす代 [国分寺市・国立市]



東京・生活者ネットワーク第25回定期大会



東京・生活者ネット 第25回定期大会を開催

東京・生活者ネットワークは、3月22日、第25回定期大会を開催しました。2027年12月までの活動方針などの全議案を可決。来年の統一地方選にむけて、議席増をめざし全生活者ネットワークで取り組むことを確認しました。代表委員に、岩永やす代(再任・国分寺ネット・都議会議員)、新村井玖子(再任・江戸川ネット・元江戸川区議会議員)、小松久子(新任・杉並ネット・元都議会議員)の3人、事務局長に、古池初美(再任・日野ネット・元日野市議会議員)が信任されました。

都議会立憲民主党・ミライ会議・生活者ネットワーク・無所属の会では、会派結成時に平和プロジェクトを立ち上げ、岩永やす代は議長を務めています。

一方で、条約に対し消極的な姿勢である日本政府を動かすためには、都市レベルの動きも重要です。地方議会での決議や世界8500都市が加盟する「平和首長会議」、ICANが行っているシティー

この日の講演で、川崎さんは、核抑止論こそ最大のリスクであることとを、現状を鑑みて力説しました。実際に、核を持たないことを安全保障の柱としている国は、120カ国にのぼります。必要なのは武力ではなく、対話と協調による外交です。核兵器禁止条約は、そのための国際的な枠組みであり、条約発効から5年の今年は、11月30日から12月4日までニューヨーク国連本部で第1回再検討会議が開かれる節目の年です。

平和プロジェクトで核兵器廃絶講演会

この日の講演で、川崎さんは、核抑止論こそ最大のリスクであることとを、現状を鑑みて力説しました。実際に、核を持たないことを安全保障の柱としている国は、120カ国にのぼります。必要なのは武力ではなく、対話と協調による外交です。核兵器禁止条約は、そのための国際的な枠組みであり、条約発効から5年の今年は、11月30日から12月4日までニューヨーク国連本部で第1回再検討会議が開かれる節目の年です。

アメリカ側の攻撃の大義名分は、核兵器製造を断念させるため、というものでした。しかし、武力による解決が平和をもたらさないのであるとおりです。都議会会期中も予算審議などを通して、武力による紛争解決は断じて許さないとこの立場と、核兵器禁止への姿勢を会派としてあらためて表明しました。

この日の講演で、川崎さんは、核抑止論こそ最大のリスクであることとを、現状を鑑みて力説しました。実際に、核を持たないことを安全保障の柱としている国は、120カ国にのぼります。必要なのは武力ではなく、対話と協調による外交です。核兵器禁止条約は、そのための国際的な枠組みであり、条約発効から5年の今年は、11月30日から12月4日までニューヨーク国連本部で第1回再検討会議が開かれる節目の年です。

3月27日、東京都議会2026年第1回定例会が閉会しました。会期中の2月28日、アメリカ軍とイスラエル軍によるイランへの大規模な攻撃があり、報復の連鎖の中で、子どもを含む多くの命が失われています。4月12日に行われた終結に向けた協議も失敗に終わり、ますます不透明な情勢となっています。

2017年にノーベル平和賞を受賞した核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)の国際運営委員兼会長であり、精力的にNGO間の連携や政府との対話を促進しています。



講師の川崎哲さん

6月立川市議選にむけて

立川・生活者ネットワークは、6月21日投票の立川市議会議員選挙にむけて、現職(1期目)・阿部美砂の擁立を決定しました。

立川市議選
6月14日告示・
21日投票

あべみさ

1971年山口県徳山市(現・周南市)生まれ 89年下関市立下関商業高校卒。福岡中央銀行入行 93～94年韓国に語学留学 2002年産能短期大学卒 09年生活クラブ生協に加入 15年生活クラブ東京50周年まつり実行委員 21年多摩きた生活クラブ監事。国に「再生可能エネルギーの割合を高める意見書提出を求める陳情」陳情代表者として、立川市議会に提出 22年立川市議会議員初当選。環境まちづくり委員会副委員長など ●上関原発建設反対、東ティモール支援、パレスチナ問題などの活動 ●家族:夫・1男2女



多摩市議選にむけて、多摩市議会議員補欠選挙で、多摩・生活者ネットワーク、新人のさとうみずほが、8127票を獲得、2位で当選しました。

武内好恵

東京は平和を選べよという世界へのメッセージとなり、極めて大きなインパクトを持つと川崎さんは強調します。

東京都は平和首長会議の参加も宣言も行っていない。まずは都議会での決議採択をめざし、都の後押しとなるよう引き続き行動していきます。

市長選と同時に開催された市議補選。都議選などで空席となった4議席を10名の候補者が争うという大激戦でした。さとうみずほは3人の子どもを育てるシン

このアピールにはニューヨーク市やパリ市も加わっているとのこと。ヒロシマ・ナガサキへの原子爆弾投下という世界で唯一の戦争被害国であるだけでなく、第五福竜丸に象徴される水爆被爆体験ももつ日本。その首都である東京都や都議会が核廃絶に向けた宣言やアピールを行うことは、市民社会と国際社会の双方に対し、「東京は平和を選べよ」という世界へのメッセージとなり、極めて大きなインパクトを持つと川崎さんは強調します。

市長選と同時に開催された市議補選。都議選などで空席となった4議席を10名の候補者が争うという大激戦でした。さとうみずほは3人の子どもを育てるシン

さとうの動きがわかり、これまでにない応援体制が組みました。さとうはチラシを配り、握手をして、走る走る。フットワークがとにかく軽い! 若さですごい! 「ひとりにはない子育て・介護」実体験からの遊説には人を引きつけるものがありました。新人とは思えない、迫力の遊説です。

このアピールにはニューヨーク市やパリ市も加わっているとのこと。ヒロシマ・ナガサキへの原子爆弾投下という世界で唯一の戦争被害国であるだけでなく、第五福竜丸に象徴される水爆被爆体験ももつ日本。その首都である東京都や都議会が核廃絶に向けた宣言やアピールを行うことは、市民社会と国際社会の双方に対し、「東京は平和を選べよ」という世界へのメッセージとなり、極めて大きなインパクトを持つと川崎さんは強調します。

市長選と同時に開催された市議補選。都議選などで空席となった4議席を10名の候補者が争うという大激戦でした。さとうみずほは3人の子どもを育てるシン

さとうの動きがわかり、これまでにない応援体制が組みました。さとうはチラシを配り、握手をして、走る走る。フットワークがとにかく軽い! 若さですごい! 「ひとりにはない子育て・介護」実体験からの遊説には人を引きつけるものがありました。新人とは思えない、迫力の遊説です。



平和プロジェクト座長としてあいさつする岩永やす代。6会派から都議が参加した。2026年3月26日



多摩市長選挙にもなつて4月12日投票で行われた、多摩市議会議員補欠選挙で、多摩・生活者ネットワーク、新人のさとうみずほが、8127票を獲得、2位で当選しました。

多摩市議会議員補欠選挙
2026年4月12日投票
佐藤みずほ 新 8127票 2位 当選
定数4 立候補者10 投票率40.89%



新人・さとうみずほ当選

編集後記/そもそも、Constitution:近代憲法のひとつである「日本国憲法」は、「人権の書」(人間の尊厳・個人の尊重を基軸に、1)人権の保障2)権力分立3)民主主義、を記載内容に国民がつくるもの)であって、国家権力を制約するために立憲主義に基づいて定められた法(最高法規)である。先の打ち解けを経て第二次高市政権が発足、憲法改正(悪?) 発議への示唆を含め、為政者の非立憲主義的態度は目に余るものがある。が、「では、私たちは立憲主義を一体どれだけ意識してきたか? 不断に憲法を語り活かしてきたか? 意識されず語られない憲法はただの紙片にしか過ぎない」と

は、法学者・金子匡良さんの投げかけだ。デジタル社会特有の分断と孤立・個人化を背景に、強者への依存・リベラリズムの否定が社会を蔽いつつあるように見える。「...自らの自由を用いるもののみが自由であり、国民の強さは弱者の幸福感によって測られるということを確認して、この憲法を制定する。一スイス連邦憲法前文」にもあるように、地域政党生活者ネットは、アドボカシーに留まるのでなく、人と暮らし、弱者に寄り添う活動を積んでいく。憲法を活かすもころすも、自由・人権・平和を希求する私たちひとり一人の市民であることを肝に銘じたい。風薫る五月に。(加藤)

さとうの動きがわかり、これまでにない応援体制が組みました。さとうはチラシを配り、握手をして、走る走る。フットワークがとにかく軽い! 若さですごい! 「ひとりにはない子育て・介護」実体験からの遊説には人を引きつけるものがありました。新人とは思えない、迫力の遊説です。